

浜松4大学生が催し

遊び交えSDGs発信



西区のイオン、きょうつも

カンパンを使い災害時の食事を体験する子どもら＝浜松市西区のイオンモール浜松志都呂で

「スマイルスポーツ」は、お玉などを使ってスパーボールを運ぶ遊びや、色の付いたマーカーを並び替える遊びなどを子どもたちに提供。常葉大のサークル「Thunder Birds」は、アルファ米やカンパンなど非常時の防災食を体験するブースを設置した。各ブースを回るとお菓子などがもらえるスタンプラリーもある。

浜松市の大学生らが持続可能な開発目標(SDGs)について発信する「大学生交流フェスタ」(中日新聞東海本社後援)が23日、浜松市西区のイオンモール浜松志都呂で始まった。24日も同所で、午前10時～午後3時まで開催される。

常葉大、浜松学院大、静

岡文化芸術大、浜松医科大学が参加する浜松市内大学地域貢献ネットワークと学生実行委員会が主催。イベントには学生団体や企業など24団体が参加する。2021年から始まり今回が3度目で、初めて2日間にわたって開催される。

浜松学院大のサークル

「スマイルスポーツ」は、お玉などを使ってスパーボールを運ぶ遊びや、色の付いたマーカーを並び替える遊びなどを子どもたちに提供。常葉大のサークル「Thunder Birds」は、アルファ米やカンパンなど非常時の防災食を体験するブースを設置した。各ブースを回るとお菓子などがもらえるスタンプラリーもある。

実行委代表で常葉大3年の栗野貞成さん(21)は「気軽に取り組んでもらいSDGsの知識を深めてほしい」と語り、副代表で浜松学院大4年の金子実花さん(22)は「いろんなブースを体験してほしい」と笑みを浮かべた。